

引き続き、市政一般質問を行います。11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 改めまして、皆さん、おはようございます。11番議員、対政会の小島徳重でございます。

先月の市議会議員一般選挙におきまして、今回も多数の市民の皆様方の信任により、3期連続最多得票で議会に送っていただきました。議会人として身に余る光栄であり、心から感謝申し上げます。この場をお借りして熱くお礼申し上げます。その責務の重さに身の引き締まる思いです。市民の皆様方の負託に応えるべく、自己練磨に努め、市民目線の姿勢を大切に、議会人としての職責を果たしていく所存です。

質問に入る前に、今回の市議会議員選挙を通して、市民の皆様方との触れ合いの中で感じたことについて述べてみたいと思います。

各地域に足を運ぶ中で、多くの激励を頂きました。一方、市議会の在り方、議員の働き方について、要望や苦情も耳にしました。集約すると、2点あります。

1つは、市民と議員・議会との出会い、触れ合いの場が少ない。議員・議会はもっと現場に足を運び、市民の声に耳を傾けるべきとの指摘です。

もう一つは、議会が執行部の追認機関になっているのではないかと。もっと執行部からの提案を見極め、チェック機能を果たすべきであるとの指摘です。そのためには、議員がもっと勉強すべきであるとの忠告を頂きました。

このような声を受け、私たちは会派、対政会を結成しました。市民の声にしっかり耳を傾け、議会の場に反映することを目指し、会派の研修を充実させ、互いに切磋琢磨し、議会の活性化に貢献していきたいと思います。

それでは、通告に従い、3項目お尋ねいたします。

1項目めは、市長選挙、市議会議員選挙における公費負担制度の拡充についてお尋ねします。

1点目として、対馬市の公費負担は従来、ポスター掲示板が設置されており、昨年の市長選挙、市議会議員の補欠選挙から選挙公報が発行されるようになり、今回の市議会議員一般選挙においても選挙公報が発行されました。

私は、選挙公報の発行について、平成25年6月定例会で投票率アップの一方策として、さらに平成27年9月定例会で、候補者をよく知り、最善の候補者を選択するための有効な手段として選挙公報の発行が必要ではないかと提言しました。

実現までに年月がかかりましたが、選挙管理委員会が公報の発行に踏み切られたことに敬意を表したいと思います。有権者からも好意的な声を聞いています。せっかく公報を出すなら、一人一人の候補者にもう少し広いスペースを与えられないかという声がありました。候補者の立場からも、所信をもっと知ってもらうためには、広いスペースが欲しいと思います。選挙管理委員会

の見解をお尋ねいたします。

2点目として、ビラ、ポスター、はがきの作成、選挙運動用自動車の使用等に公費負担を拡充する動きが全国的にも広がり始めています。対馬市でも、今後、拡充する考えはないか、お尋ねします。

2項目めは、小中学校の複式学級編制基準の改善についてお尋ねします。

対馬市の小学校では、18校中11校に26学級の複式学級があります。国の複式学級の編制基準は、平成3年以降、改善されないままです。多人数学級の編制は、昭和34年の50人学級から改善がなされてきて、平成3年度からは標準の人数を5年かけて学年進行で35人へ引き下げる決定がなされ、令和3年度は小学校1、2年生が35人学級となっています。

義務教育の根幹である機会均等、教育水準の確保の観点から、複式学級も編制改善がなされるべきであると考えます。そこで、複式学級の編制基準の引下げについて、県、国への要望を対馬市から発信すべきではないでしょうか。教育長の見解をお尋ねします。

答弁の内容により、一問一答の場で市長の見解を求めることがあるかもしれません。

3項目めは、美津島町グリーンパーク内の遊具施設の取扱いについてお尋ねします。

グリーンパーク内の大型遊具が老朽化し、撤去されると聞き及んでいます。グリーンパーク内の遊具は、美津島地区のみならず、対馬市民、特に幼児・児童を中心としたファミリー層の貴重な憩いの場となっています。撤去後の代替遊具の設置計画についてお尋ねします。

以上3項目について、10分以内とは申しませんが、簡潔明瞭な御答弁をお願いいたします。必要に応じて、後ほど、一問一答での答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 選挙管理委員会委員長、庄司智博君。

○選挙管理委員会委員長（庄司 智博君） おはようございます。小島議員の質問にお答えいたします。

初めに、市長選挙、市議会議員選挙における公費負担制度の拡充についてでございますが、まず1点目の、選挙公報の1人当たりのスペースを拡大し、候補者の所信をもっと分かりやすく周知したらどうかについて。

選挙公報は、候補者の氏名、経歴、政見等を有権者に広く周知することができる有効な手段でございます。本市の市長選挙、市議会選挙における選挙公報につきましては、平成31年4月に条例を制定し、令和2年3月執行の市長選挙及び市議会議員補欠選挙から発行しております。

選挙公報を発行するまでの流れは、告示日に各候補者からの掲載文申請を受理した後、掲載順序を決めるくじを行い、決定した構成に従い印刷を発注し、島内に12か所あります配達郵便局へそれぞれ封筒詰めした選挙公報を持ち込み、配達地域指定郵便により各世帯へ配布しております。

選挙公報の掲載欄の規格につきましては、立候補予定者説明会においてお示しする必要があり、立候補予定者数、印刷及び封筒詰めに要する時間等を考慮し、選挙管理委員会で決定しております。

選挙公報のスペースの拡大につきましては、印刷枚数が増えることが予想され、印刷に今以上日数が必要となることから、告示日から投票日までの期間の短い市長選挙及び市議会議員選挙におきましては、その対応が難しいものと判断しております。導入して約1年経過したばかりでございますので、今後は他市の公報も参考にしながら紙面構成を考えてまいりますので、御理解をお願いいたします。

次に、今後、ビラ、ポスター、はがきの作成、選挙運動用自動車の使用等、公費負担を拡充し、立候補や選挙運動の機会均等を図るべきではないかとの選挙公営制度についての質問でございますが、選挙公営制度は、資産の多少に関わらず立候補や選挙運動の機会を持てるようにするため、一定の範囲で国や地方公共団体が立候補者の選挙運動費用の一部を公費で負担する制度でございます。

市町村の議会の議員及び長の選挙におきましては、条例で定めることにより、ビラ、ポスターの作成及び選挙運動用自動車の使用に要する経費を公費負担することができることとされております。選挙運動用はがきの作成費用につきましては、現行法において、選挙公営制度では認められておりません。

近年、各地方議会議員選挙において、投票率の低下や無投票当選の増加の傾向が強まっており、議員のなり手不足の対応が課題となっております。議会は、地域の多様な民意を集約し団体意思を決定する機能や政策を形成する機能、執行機関を監視する機能を担っており、議会がその重要な役割を果たすためには多様な層の住民への議会の参画を促すことが求められております。

市内におきましても、選挙公営制度を拡充することにより、立候補しやすい環境の整備が図られるのであれば導入すべきと思いますが、制度の拡大は市の財政負担が生じますので、今後、市長部局と協議してまいりたいと考えます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 小島議員の質問につきまして、私のほうからもお答えさせていただきたいと思っております。

市長選挙、市議会議員選挙における公費負担制度の拡充についてでございますけれども、選挙の公費負担制度、いわゆる選挙公営制度につきましては、先ほど委員長が説明したとおりでありますので、省略をさせていただきます。

志を持った市民が立候補できる環境を整えるためにも、制度の拡大は理解いたします。また、県内各市の状況も把握いたしておりますが、市議会議員選挙、市長選挙も多額の予算を必要とい

たします。今後、県内各市の詳細な内容を精査し、市民の理解が得られるよう、選挙管理委員会とも協議してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 小島議員の質問にお答えいたします。

2点目の複式学級の編制基準の改善への要望についてでございますが、本市の小学校においては複式学級が26学級あり、特別支援学級を除いた学級の約3割が複式学級となっております。

複式学級の編制基準の改善につきましては、以前より様々な立場から、県、国への要望が繰り返しなされております。全国へき地教育研究連盟や全国町村教育長会からは国に要望が出され、県市町村教育委員会連絡協議会は以前から県教委を通して国へ要望し、長崎県市長会においても、本年4月に提言書を提出しているところです。しかし、議員御指摘のとおり、複式学級の編制基準は改善されていない状況です。

児童数の減少が進む中で、より多くの学校で児童一人一人を大切にされた教育が実現できるように、今後も編制基準の見直しについては他市町との連携を図りながら、本市の実情を伝え、あらゆる機会を通して提言・要望を重ねていきたいと考えております。

また、本市におきましては、全ての複式学級を有する小学校に複式支援等非常勤講師、学習支援員などの加配をしており、少人数である複式学級の利点を生かした教育が充実するよう、県教委との連携を深めながら教育環境の改善及び指導法の改善に努めてまいります。

次に、美津島グリーンパーク内の遊具撤去後の代替遊具の設置についてでございますが、美津島総合公園は平成5年に全てが完成し開園しており、野球場、テニスコート、野外ステージ等が整備され、園内にはローラー滑り台や木製の複合遊具が設置された広場があり、幼児や児童を持つファミリー層の方々が訪れ、親子の触れ合いを楽しむ憩いの場となっております。

木製の複合遊具につきましては、経年劣化により、木製部材の腐食、金具の緩み等が発生してきておりますが、部分的な補修により遊具の長寿命化を図りながら、皆様に御利用いただいているような状況であります。

現時点において、教育委員会では、遊具の撤去及び代替遊具の設置に関する計画等はございません。ただし、今後において、老朽化が進み、危険性が高まった場合には使用禁止などの措置を取りながら、補修対応での維持あるいは撤去の検討も必要であろうかと考えております。

議員も御承知のとおり、市内には旧町時代に整備された運動公園施設が数多くあります。どの施設も老朽化が進み、毎年多額の修繕費を要している状況です。また、施設の維持に係る経費についても、多くの予算を要しております。

このような状況の中、遊具の更新を考えるにしても大きな予算が必要であり、本市の財政状況

も厳しいことから、今後は調査・点検を行った上で、整備方針を構築してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 御丁寧な答弁、簡潔にさせていただきましたありがとうございます。

まず1点目の選挙の公費負担の件ですが、委員長から答弁があったとおりでございます、やはり公営化というのは確かに有権者の関心を高め、投票率を高め、そしてまた市民の市政への関心を高めるという意味で大変重要だと思いますので、答弁の趣旨にのっとり、今後、十分また検討を深めていただきたいと思います。

選挙管理委員会も、そんなに度々会議あるわけでないでしょうから、やっぱり答弁にあったように、先行している他の自治体の状況等も十分研究していただいた上で進めていただきたいと思います。

まず1点目のスペースの件ですが、今回、対馬市でやっていただいたスペースは、このスペースです。これは、総務課長に事前にお尋ねしたときには、いわゆるA2というスタイルの用紙に印刷をして一枚物で配れば、早く印刷もできるし、配布もしやすいということでございました。

対馬市の印刷所の限度では、このA2というのが最大なのか。これ、ほかの自治体の例を一つ、私、持っているんですけど、これはA2よりもちょっと大きいスペースです。いわゆる新聞用紙のスペースだというふうに私は思っていますけど、これの印刷は可能なかどうか、その一点だけ、これ、技術的なことですが、確認をしたいと思いますが、総務課長でも結構です。

○議長（初村 久藏君） 選挙管理委員会事務局書記長、桐谷和孝君。

○選挙管理委員会事務局書記長（桐谷 和孝君） 小島議員の質問にお答えいたします。

現在、対馬市では、A2の用紙の印刷が最大と聞いております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） そういうふうに事務局では把握してあるようですが、できればこのサイズまでしていただければ、スペースが結構広がるんです。そうしますと、対馬市で今度やっていただいたのに比べますと、字も大きくなりますし、内容的にも結構分かりやすくなるんです。その辺りの検討はぜひしていただきたい。

それから、市長のほうからも答弁があったんですけど、公営化を進めるためには予算が必要だということなんです、長崎県下でも東彼杵町が条例化をしていますよね。そして、全国的に

も幾つかの事例、私も見たんですけども、やはりはがき、ポスター、チラシ、この辺りを公営化しようという動きがあるわけです。議員数でいくと、結構な予算ですけども、まずは手始めに、市長選挙だけでも、今挙げた公報以外のことはできないのかどうか。これは、やはりより多くの方が立候補しやすくなったりあるいは特に若い層の方々が政治を志す場合に、結構な負担になる。選挙費用、負担になるわけですから、この辺りについてどういうふうを考えるか。議員と市長との選挙を別に考えて、そういう考えはないかどうか。これは市長のほうに、予算伴いますから、お尋ねをしたいと思いますけど、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 多額の予算を伴うということで、まず初めに市長選挙だけでも実施すればどうかというような御質問でございますけども、このことについては、先ほどもちょっと答弁いたしましたように、まだもう少し他市の件も精査をさせていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いたします。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） そういう答弁を頂きましたので、じっくりと研究していただいて、ぜひ公営化を進めていただくようお願いをして、このことは区切りをしたいと思います。

次の複式学級の件ですけども、教育長から答弁があったとおり、対馬市の学校の複式の学級の状況というのは、約3分の1の子供たちが複式学級で学ぶという状況なんです。このことについて、私が今回取り上げたのは、いわゆる50人学級から、多人数のところ、45人になり、そして次に40に変わり、そして、今、35人学級が実現しようとして変わっていつているんです。ところが、いわゆる複式についてはずっと変わっていないという状況、これ、教育長も御存じだと思います。

これ、ちょっと資料にしてみたんですけど、ちょっと小っちゃくて見えにくいところがあるんですけど、ここで来て、複式も当初は35人学級から始まっているんです。複式の35人というのは、すごい大人数だったんです。それが25人、22人、20人、18人と来たんです。そして、ここ、平成3年のところが18人だったんです。それから先は、平成3年から約30年間、ずっと16人のままで変わっていないんです。このことが、やはり一人一人を大事にする教育ということ、今、教育長、答弁頂いたんですが、その中でこれの改善をしなきゃいけないという思いで答弁してもらったんですが。

教育長会、それから市長会、いろんなことで取り組んできたということですが、その状況を少し説明をしてみてください、県、国の段階で。県や国、特に国が最後オーケーを出さないと進まないんですが、その反応についてはどうですか。その辺り、私たちは情報を持たないんです。これはもう教育委員会しか分かり得ないことですが、国の反応、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 議員の質問に、対馬市から発信をしたらどうかということですが、私たちが個人で発信しても力がありませんので、答弁で言いましたように、いろんな組織を活用しながら国への働きかけを行っているわけです。国の複式学級の編制基準に対する反応というのは、私のほうも捉えておりません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） これ、やっぱり都市部のところは人数的に多い、それは改善されていくのに、僻地の複式が人数が変わらないまま30年来ているというのは、これは、教育の機会均等ということを教育長おっしゃいましたけど、まさにそのとおりの理念からいったらやはりおかしいわけです。

それで、今までも取組してこられたということですが、特にデータとか何とかの中心になるとのは、教育長も答弁があった、いわゆる全国へき地教育研究連盟というところがあります。ここがデータ等を基に国にも要望をしている窓口みたいになっているんですが、その数はどこまで下げようとしているのか、御存じですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 現在、小学校では16人ですがけれども、これを10人程度に。それから、1年生を含む場合には、現在の8人から5人程度にというふうな要望の内容だと思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 教育長は今、部長からのメモで答弁されたとおりに、そのとおりで、全国的にへき地教育研究連盟が取組をしているのは、小学校は今、16人が国の基準なんです。17人おれば学級が単式に分かれるけども、16人までは一つの学級で勉強しなさいよと。これを、へき連は10人まで下げようとしているんです。ところが、30年間、前に進まない。

それから、小学校1、2年生、これについては、今は1年生を含んだら、8人までは複式で勉強しなさいよと、9人になったら別々の学級にしますよということなんです、これが実現すれば、対馬の中で複式学級が幾つ減るか、教育長、試算されたことありますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 7学級減る。現在の複式学級の数よりも、7学級減るということになるようです。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） これは、対馬の小学校の学級編制の人数です。私が赤でマークしているところ、もし、へき連が希望してあるとおりに国が認めてくれれば、8学級が単式に変

わかります。そして、小学校1、2年生が別に、全く――へき連は1年生は必ず単式で勉強させましょうよと、学校に入ってきたばかりの児がほかの学年と交じて勉強するのはかわいそうですよと、せめて1年生は別にしようという、へき連の計画で行けば、6校が分離されます。そしたら、具体的に学校名を挙げると、金田小学校、西小学校、佐須奈小学校は複式が解消されて、全部単式になります。

確かに、教育長答弁があつたように加配という形で、複式の支援の講師の先生とかいろんな形で支援があつていますが、学級そのものは別なんです。それから、先生の定数というのにも、完全に単式になると、プラス1が正式の教員が来ますよね。そういう中で、教育長、自分たちは国がどういふ動きを、反応しているか、なかなか情報つかみにくいということですが、ぜひこの際、教育長は、長崎県下でも対馬と五島、壱岐、離島が多いわけですが、対馬の教育長として強力にこのことを取り組んでいただきたいという、それで私はこの質問を立てたんです。

国にどう届いているか分からないという段階なんだけど、まずは県内の教育長会で強力にリーダーシップというか、発言をしていただいて、そして、それを今度は九州に広げていただく。九州も、鹿児島県を中心に複式多いですね。だから、その拠点となり得るのは九州だと思うんです。その、のろしを上げる第一歩を、ぜひ永留教育長に頑張ってもらいたいと思うんですが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 全国都市教育長会であるとか、教育委員会連絡協議会であるとか、こういうところでもいろんな多くの要望を国に上げていっております。そういう中でやっと実現したのが、この35人学級ですかね。

今、議員がおっしゃられるように、対馬市からの発信ということで、私も長崎県の都市教育長会であるとか市町教育委員会連絡協議会であるとか、そういう中において、また今後発信をしていきたいというふうに考えます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 今、教育長のほうから、教育長会の中でぜひ発信をしていきたいということ、そういう心強い発言を頂きましたので、ぜひ頑張ってください。

それで、特に、いろんな要望事項が教職員の定数改善についてあるんですけど、やはりこれはさっきも言ったように、僻地である対馬からがやはり発信の原点であると思うんです。北海道もすごく複式が多いところなんです。そういうところ等の情報とかも得ていただいて、特にへき連、そして現場の校長先生方の校長会、こことも情報を共有していただいて、頑張ってもらいたいと思います。

それから、これは先ほど答弁の中にもあつたように、市長会でもこれは要望事項として取り上



げているということですが、市長、このことについて、県下の市長会なりあるいは九州の市長会あたりで、何かそういう具体的に複式学級の人数を減らすということについての文書を見られたり、発言された記憶はありますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） こういう内容が発信されたということでありましたけども、ちょっと詳しい内容等、私もちょっと見ておりません。申し訳ございません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ぜひ、この機会に、市長のほうにも——市長、いいですか。打合せはいいですか。市長、ぜひ、離島関係の市長さん方あるいは本土部にも複式学級はありますので、県下で結構な数があるんです。75校、151学級、県下ではあります。だから、これもぜひ、市長会の中でも、教育部門の部会とか会議があったときに対馬市長として発言をしてください。お願いをします。よろしいですかね。——はい。うなずかれましたから、もう答弁はいいですから、そう理解をしました。

これで、あと、そうすると私たち議会も、またこういうことについてはお互いに勉強して、議会でもやはり決議をお出しするなりして改善をしていくような取組を提言はしていきたいと思えます。それで、やはりその場にいる、そこで勉強している子供たちの立場、それから指導してある先生方の立場、それを踏まえた上で、ぜひその波を起こしたいと思っています。

それで、こういう話題がありました、最近ですね。文科省が、「#教師のバトン」というプロジェクトを動かしています、今。これはどういうことかいうと、教師になる人が少なくなってきて困っていると。だから、文科省が、教師は魅力的な仕事ですよということを広げるために、「#教師のバトン」というプロジェクトを動かしました。そこまでは報道されているんですが、そしたら、現場の先生方から、いや、それ、分かっていないよと、現場のこと。現場はこんな状況だよということで、逆に「教師からのバトン」ということで、文科省に最近、愛知県の先生方を中心に4人で直接文科省にバトンを持って、そのバトンに現場の内容を書いたものを持ち込んで担当官に渡したということが新聞報道もされましたから、これ、見られたと思いますが、教育長、このこと御存じですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 「#教師のバトン」については知っておりますけれども、愛知県を中心に文科省に行ったということは初耳です。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） そこで、ぜひ、教育長、それから市長に、対馬から複式のバトンをぜひつないでいただきたいということをお願いをして、このことについては区切りしたいと

思います。

なぜ、私、複式のことを言うかという、私も教師スタートが、複式の分校でスタートしたんです。そのときの教師の立場での苦労はすごいんです。2学年分を教材研究します。普通の先生の倍、時間かかります。その上に、2つ、いかに組み合わせてどういう指導をするかというのにまた時間かかるんです。複式の学級でも、人数が少なかったら、10人かぐらいだったらまあまあ届くんですけど、今の国の制度でいく17人や18人おる学級ではなかなか目が行き届かないんです。だから、ぜひこのことを、今、教育長にも市長にも強くお願いをして、このことは終わりたいと思います。

それから、グリーンパークの大型遊具の件については、確かに答弁、教育長からあったとおりに、ここについてはかなり老朽化をしてくれていますということですが、長寿命化を図りたいというふうなことでしたけど、しかし、いずれにしても、これ、木製で、傷みが激しくなっているんです。

それで、私、このことをなぜ取り上げたかという、これは6月7日に、私、ほかの用事があってグリーンパークの野球場に行ったんです。そのとき、業者の方がこの大型遊具を点検をしてあったんです。点検してあるから、補修か何かなのかと思って業者の方に尋ねたら、いや、傷んできたから、撤去するために、撤去するとしたら幾らぐらいかかるかという見積りを頼まれたからしているんですよとおっしゃったんです。だから、いや、撤去する、そこまではいい。危険なら撤去するのは当然でしょうが、その後がどうなるのかなと気になったから、この質問を上げたんですけど。その辺り、教育長の答弁とちょっとニュアンスが違うんですけど、もう少し、その辺りは、現場からの声はどうですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 教育委員会として、これを撤去するという計画はまだありません。

ただ、美津島地区の担当が、もし撤去したらどんくらいかかるっちゃろうかということをお願いをしたみたいです。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 分かりました。確かにそういう見積りを業者の方が複数でしてありましたので。何もなしではしないはずなんで。

私が思ったのは、そこまでは分かるですよ、役所の立場ね。ところが、今までの例からいったら、もし撤去した場合、なかなか次が設置が難しいんです。いい例があるのが、美津島の上の町の公園のところの遊具を撤去されたことがあったんです。これは、美津島で勤めてあった方は分かってあると思う。ところが、撤去した後、もうあとは何もないというような状況が、空白が生まれたんです。上の町の地域の人たちを中心に、いや、もとはジャングルジムと立派な滑り台

があったのに、何もなしでは困ると。上の町も結構な住民がおられて、子供たちもおるからね。また何か設置してくださいというふうに結構要望が上がって、美津島のほうが結果的にはまた設置されたんですけどね。

そういう例があったから、取り壊すのは簡単、撤去するのは簡単だけど、その後のことがあるんですけど、その辺りについて、教育委員会としてのあるいは市長部局も通じて、公園の点検、それから補修計画等を練るということですから、これは同僚議員の、また糸瀬議員が今日の午後されますんで、その辺りでも出てくると思いますけど。撤去するのはいいから、撤去した後は何らかのやっぱり代わりの遊具を設置するという考え方をもちかどうか、ちょっとそれを確認をしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） このグリーンパークの遊具も、もし、同じようなのを造り替えることは不可能やと思います。グリーンパークを造るときに、いろんな補助金を活用しながら、その中でそういう遊具も造ってあると思うんですけども、今度もし造り直すとしたら、そういう補助なしの中でやらなければなりませんので非常に厳しいなとは思いますが、幼児・児童の遊び場としては何らかの遊具は必要かなと、それは思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 安心いたしました、教育長がそう答弁してくださいましたのでね。いや、もう難しいんじゃないでしょうかと言われたらどうしようかなと思っとったんですけどね。やっぱり、かわいい子供たちのためには、ぜひそういう考え方をもちいたしたいと思っています。

これで、ここの遊具、とても、言われるように立派なものです。私が、これはまた確かめに行ったんですけど、これは昨日行ってきましたけど、ここに子供が1人写っているんです。この子供さん、四、五歳ぐらいだったと思います。写真、後ろから撮りましたけど、顔撮ったら肖像権でいろいろうるさいからね。1人で黙々と遊んでいましたよ、あちこち回って。

こういう状況をやっぱり——市長もこう述べてあります、所信表明でね。去年の、2年の6月の定例会で2期目の当選後の所信表明。「幼児の遊び場の不足について、子育て世代の皆様から意見を多く頂く機会もあり、全ての世代が集えるコミュニティー拠点施設の整備について、遊休施設の利用活用も視野に入れて取り組みます」という答弁なさっています。記憶にあると思います。

それから、3月の予算の特別委員会の総括質疑のときに、吉見議員からの質問に対して、同じような趣旨の答弁をされています。これも読み上げてみましょうか。市長の答弁です。「お母さん方からも、子供たちが安全に遊べるような公園が欲しいと多くの声を聞いている。公園の整備

は大変重要だと認識している。遊具の老朽化、設置費用、また使用その他安全性も勘案して、最適な整備をしていきたいと考えております」と、こうあります。

教育長だけでは解決しないことですから、市長のお考えも聞きたいと思いますが、遊具の設置については、考え方、お変わりございませんか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私のほうも、今、小島議員のほうから発言いただいたように、コミュニティ拠点施設の整備というのは大変重要であろうというふうに今も思っております。

ただし、先ほど、教育長のほうからもさきに答弁がありましたが、こういった形の公園は、造る際にはいろんな補助があるものですから、この補助を最大限活用して、かなり程度のいい遊具等も設置されてあります。しかしながら、これが補助なしになったときにはどのような形になるのか、そこら辺を今後、コミュニティ拠点施設として集約化も考えながら整備をしていく必要があるのではないかなというふうに私自身も思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長の立場で、そういうふうな御答弁があるだろうと私も思いました。

それで、市の総合計画の後期計画をつくるときに、市民からのアンケートというのがあります。その中にこういう提言がありますが、市長、申し上げます。ふるさと納税の使用は、子供たちの遊具とか子供たちの施設の充実に使ってもらいたいという市民からの声が後期計画のアンケートに載っていましたが、このことをどう受け止められますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このふるさと納税のアンケートの関係、もちろん私も見させていただきました。そして、また、このことについては何らかの対策が必要であろうというふうに思っております。

ただ、今、話がありますように、かなりの公園数がございますので、今後、そこら辺の集約化とか、そういった件については、また今後、いろんな検討もさせていただきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで、美津島については、吉見議員も言われたグリーンピアのほうもあります。それから、こちらもありますね、今、私を取り上げた。美津島、一番出生数が多くて、そして人口が減っていない地域です。その集約化の中で、十分そのようなことを勘案していただいて検討いただきたいということをお願いして、質問を終わりたいと思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

-----

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時からとします。

午前11時59分休憩

-----

午後1時00分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） こんにちは。小宮でございます。

今回の市議会議員選挙におきまして、かろうじて、かろうじて当選をさせていただきました小宮でございます。市民の皆様、本当にありがとうございました。

私のモットーは市民の声を生かす。市民の市政をでございます。4年間、よろしくお願いを申し上げます。

早速、当選したら市民からの声を2つ頂いておりますので、御紹介をさせていただきます。

これ、男性の方でございますが、このようなメッセージを頂いております。19名の議員の皆様、御当選、おめでとうございます。自分のためではなく対馬市のために頑張ってください。古い議員さん、新人の若い議員さん、特に若い議員さんには、大変期待をしております。市民のために頑張ってくださいと。月給30万円以上の税金を無駄にしないようにということでございます。何かびくっとするようなメッセージでございます。

次に、これ、女性の方からでございますが、この選挙ポスターについての声を聞いております。選挙告示の選挙ポスターには規制がないのでしょうか。若いときの美男美女のポスターもあるように思いますと。私は、いつもポスターを見て議員さんを選んでいきますと。公平にお願いしますというお言葉も頂いております。

今月は、G7、首脳7か国会議がイギリスでございました。そして、このちょうど声明の中で、対話問題を明記しておられます。中国を非常に懸念をした声明でございます。

その中国は、今月もそうですけれども、5日前に、我が尖閣諸島を工船で、軍艦みたいな船ですが、この船で4隻入って、そして、この日本漁船を追いまくるわけでございます。何といいましょうか、わけの分からない国でございます。

このように、このだらだらしておりますと、なめられてしまいます。竹島みたいにとられることがないように、我が日本国政府には、武力によって、これを抑えるようお願いをしたいと思います。

そして、この五輪、パラリンピックでございますが、もう既に決定をしております。あと僅か